

1 今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

1-2 漢字を読む(お年玉を貯金する) 100%

・もっとも正答率の低かった設問

8-3 ローマ字を読む 45.0%

・もっとも無解答率の高かった設問

8-3 ローマ字を読む 45.0%

・無解答なしの設問

1-2

3 ルール説明の表現について助言した内容をして適切なものを選択する

5 公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

3-1「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する 87.5%

・もっとも正答率の低かった設問

2-2「1「早ね早起き」活動の課題について図2の結果を基に書く 45.0%

・もっとも無解答率の高かった設問

1 ミンタビューメモを基として話の展開に沿った質問を書く 12.5%.

2-1 12.5%.

2-2「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について(表2)の結果を基に書く 12.5%

・無解答なしの設問

1-1、1-2、2-1(いずれも選択問題)

分析

国語Aは、平均正答率、領域別、問題形式、無解答率と全て概ね良好な結果であり、加えて、学力高位層の割合が過去最も高かった。これは、学校全体で語彙習得を課題とし、漢字確認テストや辞書活用を継続し、授業と家庭学習を連携させ漢字練習や音読練習に日々取り組んできた成果と考える。

一方、課題としては、領域別では「書くこと」である。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では「書写」と「ローマ字」に課題がみられた。毛筆指導・ローマ字指導は各学年で系統的に指導を継続し、学習内容を定着させる必要がある。

国語Bでは、国語A以上に良好な結果であった。正答率の高い問題は、「話の展開に応じて質問し、必要な情報を得る問題(選択形態の設問や50字で書く設問)」「将来になりたい職業(パン職人)について調べ、紹介する問題(選択形態の設問や60字でまとめる書く設問)」であった。これまで本校の課題であった「指定された字数の範囲で書くこと」に改善が見られた。これについては、6年間継続して国語科で研究を進め、更にこの3カ年は中学校区ブロックで「書く力」育成に取り組み、自ら考え書いたことを基にグループで話し合う授業スタイルを進めてきた成果が表れていると考える。

国語力を今後も更に伸ばすためには、各教科、総合的な学習など教育活動全般において言語活動を大切に、文章を図表やグラフなどと関連付けて読み取り、考えたこと、分かったことを書いたり、判断したことの根拠を明確にしたり、目的や意図に応じ構成の効果を考えて書いたりするなどの学習を重視する必要がある。

算数・数学

算数・数学A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

大変良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

3(1) 2つの数の大小を比べて不等号を答える
問題

①75□25

②104□112 100 %

・もっとも正答率の低かった設問

9(2) 定員と乗っている人数の割合を百分率を用いた
図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを選んで
書く問題 60%

・無解答率について

設問2(4)(5%)

設問4(5%)

設問7(5%)

設問9(2)(7.5%)

と昨年度に比べて無解答の割合は減少しているが、
正答率のもっとも低かった問題が無解答も1番多くな
っていることから、最後の設問ということもあり、時間
の足りなかった児童がいたことや割合に課題のある
児童がいることが考えられる。

算数・数学B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問

1(1) 1辺が9cmの正方形の縦と横の長さを変えた
ときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値
の組み合わせを書く問題 90 %

・もっとも正答率の低かった設問

5(1) 示された形をつくることができることを説明する
式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く問題
(記述式) 5 %

・無解答率について

設問2(3) 目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3
が表す意味を書く問題(記述式) 20 %

設問3(2) 縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、
1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを
書く問題(記述式) 22.5 %

設問5(1) 20 %

と記述で答える問題について無解答の児童が多いこ
とがわかる。

分析

算数Aは、すべての領域、問題形式が概ね良好な結果であった。昨年度と同様に基礎的、基本的な知識・技能が身についてきていると言える。もっとも正答率の低かった問題でも60%と半数以上の児童が正解できていた。ただ、割合の領域が今年度も正答率が低かったため、苦手な領域の克服には至っていないことが分かる。児童の日常生活に基づいた学習、さらに活用力の育成が必要である。算数Bもすべての領域、問題形式が概ね良好な結果であった。ただ、記述式の解答は苦手な児童もおり、身につけた知識・技能を活用し、文章で説明をする力をつけていくことが必要である。

平成19年度からの推移を見ると、ゆるやかではあるが本校として正答率は上昇傾向に無解答率は減少傾向にある。その理由としては3年から6年まで習熟度別指導を徹底してきたことである。習熟度別担当教員が3年から6年まで担当し、学習内容や学習方法の系統性、継続性を踏まえ、授業改善を進めてきたことや専門支援員等が授業に入り込み、躓きのある児童に対して、細やかな指導をしていることの成果が表れてきている。

課題としては、基本的な知識・技能を生活の場において活用できる力をつけること。自分の考えを振り返り、事柄が成り立つことの説明として必要な根拠を考え、よりよい説明ができるよう表現力をつけていくことが挙げられる。そのために、全学年を通して一貫した算数指導、問題解決学習の充実、書く力の育成を進めていく必要がある。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・今年度の結果についても、国語ＡＢ、算数ＡＢともプランの取組みの成果があらわれ、平均正答率は上昇傾向にある。特に国語Ｂに成果が顕著にあらわれている。
- ・無解答率についても、無解答が減少傾向にあり、昨年度に引き続き、取組みの成果が表れている。

学力高位層と学力低位層についての分析

- ・学力高位層については、上昇傾向で、良好な結果であった。習熟度別指導における個に応じた学習の成果が表れていると考える。
- ・学力低位層の割合については、昨年度より少し増加したものの、この３カ年は改善傾向にあるので、低位層に対してのきめ細やかな指導の成果が表れていると思われる。

〇●取り組み●〇

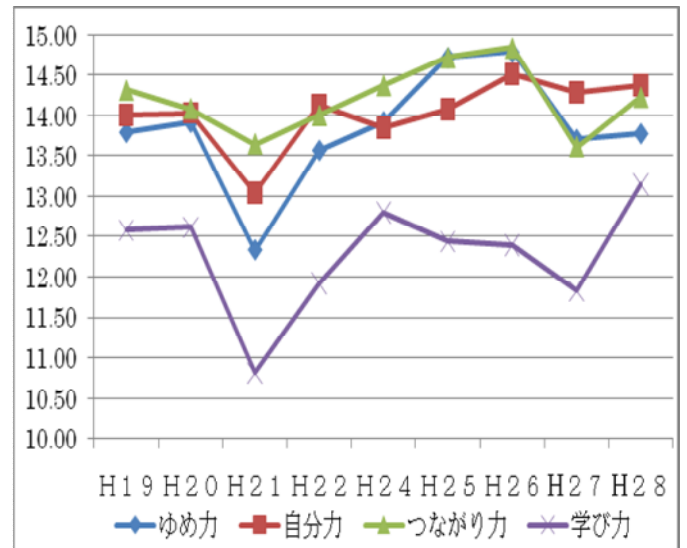
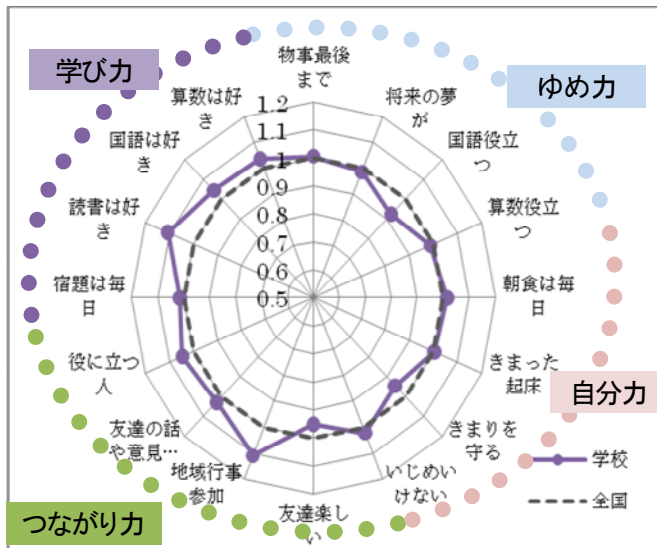
学力向上に関する取り組み

- ① 授業改善
 - ・研究授業・公開授業実施（国語２回、算数１回、体育１回）
 - ・校内研修会（国語、支援教育）
 - ・習熟度別少人数指導の充実「分かる・楽しい算数」の追求（中学校区共通課題）
- ② 全校での取組
 - ・支援の観点からの教育環境・教具等の整備
 - ・西河原スタンダードに基づいた「めあて」を明確にし、「振り返り」を大切にした授業
 - ・自分で考えたことを書き、それを基にグループで話し合い、考えを深める問題解決的な学習の追求
 - ・水曜日朝の学習「のびのびタイム」の充実（全教職員で関わる）
 - ・読書好きな児童を増やす取組み（図書館支援員、図書委員会の活動）
- ③ ていねいな個別支援
 - ・職員間で子どもについての共通理解（毎週金曜日朝の児童実態交流会）
 - ・学習室での自主学習（児童自らが分からない点を聞きに来る場作り）
 - ・専門支援員、支援教育サポーターの授業の入り込み指導
 - ・月曜日放課後学習会（１～３年生いばらきっ子スタディ学習及び、各教室での個別指導学習）
- ④ 家庭との連携
 - ・読書ノートの取組み
 - ・図書館便りで読書好きを増やす
 - ・各学年、算数プリント（授業の復習及び、繰り返し学習）、音読、漢字学習を宿題にし、家庭学習を定着させる。
 - ・学期毎の家庭学習がんばり週間（宿題提出１００％達成運動、保護者啓発プリント配布）
- ⑤ 自信をもって挑戦する児童の育成
 - ・高学年が低学年の手本になる（交流勉強・清掃・遊び）
 - ・役立つ活動（係、委員会活動等）で自己有用感を育み自尊感情を高める
 - ・「川端康成文学館俳句コンクール」「相馬芳枝科学賞」「給食献立募集」など各種コンクール等に応募させる。
- ⑥ 幼小、小中、小小連携
 - ・中学校区で足並みをそろえた取組み（テーマ：好き・書く・体力）
 - ・小中学校間で合同教科研究
 - ・園児と児童の音楽交流

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果

これまでの推移



分析

今年度の結果について

- ・全体的には概ね良好である。
- ・ゆめ力については、教科学習の有用性をより意識させる必要がある。
- ・自分力については生活面、自律の意識面でも良好な結果である。
- ・「きまりを守る」に対しての意識が少し低いことは課題である。
- ・「地域行事に参加」は全国平均を大きく上回り、学校が地域にしっかり支えられていることが分かる。
- ・学び力については、国語や算数の授業が「好き」な児童が多い。
- ・読書が「好き」な児童が大変多いことは読書教育の取組みの成果が表れている。

これまでの推移について

- ・全体的にゆるやかな上昇傾向にある。
- ・「学び力」がこれまでで最も数値が高くなったことは、学習意欲を高めるための、わかる授業づくりの取組みの成果が表れていると考える。

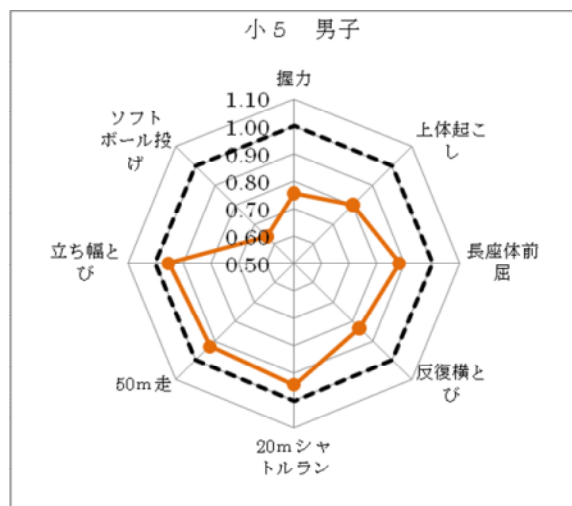
取り組み

- ・読書への関心を高めるため、読書ノートの取組みや月1回の読み聞かせ活動を続ける。
- ・図書委員会の活動により毎日図書室を開室し、子ども達からお薦めの本や新刊本の紹介をする。
- ・3年～6年算数の授業は基本的に習熟度別1クラス2分割とする。
- ・授業中や休み時間など、支援教育サポーターや専門支援員による躰きへの個別支援を行う。
- ・子どもたちが1時間の授業で「わかった」と達成感をもてるよう、国語・算数を中心に授業改善をすすめる。
- ・「税理士」「気象予報士」「栄養士」などの専門的な職業の人による出前授業を多く実施し、子ども達に将来への夢を意識させ、学習意欲を持たせる。
- ・人権教育・道徳教育を大切にし、仲の良い集団づくりをすすめる。
- ・児童会活動により学校生活のルール徹底を図る。
- ・地域行事に教職員も積極的に関わることで地域・保護者との連携をすすめる。

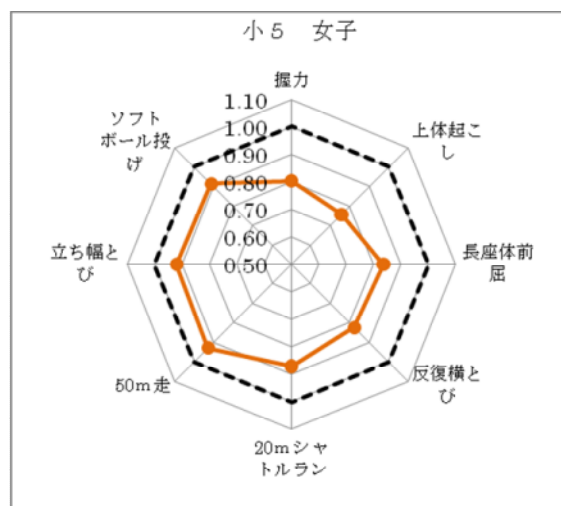
（２）全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子（小5）



女子（小5）



分析

全ての項目において、全国平均と比較すると課題が見られる。

5年生男子は立ち幅跳び、50m走、20mシャトルランと陸上種目においては平均値に比較的近い結果となった。5年生女子も立ち幅跳び、50m走、ソフトボール投げが平均値に比較的近い結果となった。

男子のソフトボール投げが全国平均より大きく下回っており、また、男女共に握力、上体起こし、長座体前屈などの基礎体幹に課題があるといえる。

引き続き低学年から基礎的な体力づくり、運動習慣づくりを図る必要がある。

取り組み

- ・ 休み時間にクラスみんなで体を動かす遊びをする日を設ける
- ・ 体を使った外遊びの奨励（遊びの紹介、遊び場の設定、遊び道具の設置など）
- ・ 雨の日の体育館開放
- ・ 持久力を養う運動（全校マラソン）の実施
- ・ 学校全体で大縄跳びに挑戦
- ・ 校内体育科公開授業・討議会
- ・ 茨木っ子運動の取組み
- ・ 授業において工夫した体づくりの運動

2

3年間の計画

(西河原小学校)		(ブロック共通)	
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	つながり、学び合い、確かな力を育む学びの創造	体を動かすこと大好き！ な子どもを育てる	「好き・書く・体力」のジャンプアップを実現
平成26年度	<u>達成感の持てる授業づくり</u> <u>授業改善</u> 西河原小学校スタンダードの徹底 国語校内公開授業研修会 支援教育研修会 算数関係者会議 <u>国語力育成</u> 「書く力」の育成：一言日記・子ども日記、作文など 「語彙力」の向上：ICT活用・辞書活動・俳句、短歌、川柳・漢字習得の徹底（漢字50問テスト年2回） <u>算数</u> 計算力の向上（計算力テスト） 問題解決型の授業で思考力・活用力育成（算数診断テスト） <u>読書活動推進</u> 読書ノート 「お気に入りの本を見つけよう」 <u>家庭との連携による家庭学習</u> 低学年から家庭学習を習慣化する： ・連絡帳サイン・テストファイル・家庭学習がんばり週間・本読みカード・計算カード・算数チャチャチャ等学習に関する配布プリント ・自主学习ノート	<u>外遊びにつながる授業づくり</u> 授業改善 *日々の運動習慣につながるような授業づくり ・体力向上プロジェクト公開授業 ・校内実技研修会実施 ・巧緻性、持久力を意識した動きを入れる ・いばらきっ子運動Ⅱの活用 *継続した体力向上、運動能力向上の楽しい取組み ・マラソンチャレンジ ・なわとびチャレンジ（チャレンジカード作成） 児童会、保健体育委員会の活動とリンクした遊び活動実施 *保護者の健康維持や体力向上への意識向上を図る *全学年で食育実施 「朝ごはんの大切さ」	○「好き」になる授業作り 算・数で共同研究 ・太田小公開授業 ・太田中数学担当が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・苦手意識克服の取組 ・指導法共同研究 ○問題解決的な学習の充実 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・中学校区全体でマラソン「みんなで走って地球一周」の取組み ・西河原小体力向上プロジェクト公開授業研究会 ○事務の共同実施

平成27年度	<u>授業と家庭学習との継続性を図る</u> <u>授業改善</u> *西河原小スタンダードの見直し・継続 <u>算数</u> *問題解決型の授業づくり ・思考力活用力育成 ・見通しを持たせた課題解決・学びの振り返りをする。 *算数診断テストの実施と活用（年2回） *のびのびタイムの有効活用（基礎計算練習） *授業の復習および既習事項の反復練習のための宿題プリント（3年～6年） <u>国語力育成</u> *「書く力」の育成：日記、作文、俳句等の展示やコンクール応募、新聞への投稿 *「語彙力」の向上：・ICT活用・辞書活用・漢字一行練習・漢字50問テスト（年2回） *「読む力」の育成：国語教材研究会公開授業研究会（3年5年） <u>家庭学習</u> *学び力を高めるため、家庭との連携による家庭学習の習慣化に向けて、授業と家庭学習の継続性を図る。 *「家庭学習頑張り週間」を学期に一度行い、家庭学習の習慣化を図る。 *既習事項の繰り返し学習と授業の復習をする習慣づくり <u>理科教育</u> *実験・観察の充実を図る。 3～6年の実験内容を一覧にし、学年枠を超えた系統的な学習を行う。	<u>集団遊びにつながる授業づくり</u> <u>り</u> <u>授業改善</u> ・ゲーム・ボール運動の充実 ・体育公開授業研究会（6年） <u>体力向上、運動能力向上の楽しい取り組み</u> ・大縄とびにチャレンジ ・マラソン月間の取り組み <u>保護者への運動習慣づくりの大切さを啓発</u> ・平日放課後の校庭開放 <u>食育授業実施（全学年）</u> ・「朝ごはんの大切さ」 ・「野菜を食べよう」 ・「栄養バランスのとれた献立」（保健医療センター栄養士による出前授業） ・「栄養バランスのとれたお弁当づくり」（6年）	○「好き」になる授業作り 算・数で共同研究 ・太田小公開授業 ・太田中数学担当が小学校へ出前授業 ○「書く」活動を全教科で ・「書くことが好きになる」取り組み ・指導法共同研究 ・西河原小公開授業(国語) ○問題解決的な学習の充実 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・体育公開授業（西河原・太田小） ・中学校区でマラソン「みんなで走ろう月間！走って走って日本縦断」 ☆上記の項目の児童実態・成果検証のため、意識アンケートを実施(年2回) ○事務の共同実施
---------------	--	--	--

平成28年度	<u>自学自習ができる力の育成</u> <u>授業改善</u> *西河原小スタンダードの見直し・継続 <u>算数</u> *問題解決型の授業づくり ・思考力活用力育成 ・見通しを持たせた課題解決、学びの振り返りをする。 *学力学習状況調査の結果分析と活用 *算数診断テストの実施と活用（年2回） *算数標準テストの分析と活用 *のびのびタイム（基礎基本の徹底・各自で答合せ） <u>国語力育成</u> *「書く力」の育成：日記、作文、俳句等の展示やコンクール応募、新聞への投稿 *「語彙力」の向上：・ICT活用・辞書活用・漢字一行練習・漢字50問テスト（年2回） *「読む力」「書く力」の育成：国語教材研究会 公開授業研究会（5年・2年） *読書教育推進 ・読書ノートの活用 ・お話ボランティアの読み聞かせ *「聞く力」「話す力」の育成：インタビュー活動報告【お話し会（3年）】 <u>家庭学習</u> *学び力を高めるため、家庭との連携による家庭学習の習慣化に向けて、授業と家庭学習の継続性を図る。 *「家庭学習頑張り週間」を学期に一度行い、保護者の協力も得て家庭学習の習慣化を図る。 *既習事項の繰り返し学習と授業の復習をする習慣づくり。 <u>3カ年計画の取組みの総括</u> *全国学力学習状況調査及び学校教育自己診断アンケートから3カ年計画取組みの総括を行う。 *次期3カ年計画に向けての方向性を定める。	<u>運動することが好きな児童の育成</u> <u>授業改善</u> ・校内体育科公開授業・討議会（1年） <u>体力向上・運動能力向上</u> ・外遊びの推奨（みんな遊び） ・保健体育委員会による「全校こおり鬼」 ・全校縦割り大縄跳び大会 ・全校マラソンの実施 ・なわとびチャレンジ（なわとびカード） ・スポーツテストの振り返り、冊子作り <u>食育授業実施</u> ・「栄養バランスのとれた献立」（保健医療センター栄養士による出前授業） ・栄養バランスのとれたお弁当づくり（6年） ・給食指導 ・給食献立の五大栄養素の掲示 <u>3カ年計画の取組の総括</u> ・スポーツテストの結果から3カ年計画取組みの総括を行う。 ・次期3カ年計画に向けての方向性を定める	○ジャンプアップ3カ年計画の総括・検証 ○カリキュラムの完成 ○小中連携ブロック会議の推進 ・合同授業研修を3校で実施 6月 太田小学校 7月 太田中学校 11月 西河原小学校 ○「好き」になる授業作り ・連携指導員による小学校への出前授業(英語科) ○ブロック通信を発行 ・年間4部発行 ○「書く」活動を全教科で ・めあて・ふりかえりの実施 ・指導法共同研究 ○問題解決的な学習の充実 ・6月合同討議会を実施 ○「体力」づくり ・体育授業の改善 ・体育公開授業(西河原・太田) ・中学校区全体でマラソン ○上記の項目の子どもの実態を調べるため、意識アンケートの実施と考察（年2回） ○事務の共同実施
--------	---	---	--